

平成20年度第1回島根県公立大学法人評価委員会 議事要旨

1. 日時

平成20年7月25日(月) 13:30～15:53

2. 場所

島根県民会館 306会議室

3. 出席者

(委員)

本田委員長、下森委員、三島委員、宮脇委員(脇田委員欠席)

(公立大学法人島根県立大学)

宇野理事長、井上副理事長、福岡事務局長、三島総務課長、森本財務課長

(事務局)

加松総務部長、藤原総務課長、西村学事文書GL、松島主任

4. 議題等

(1) 委員長挨拶

(2) 会議公開・非公開の決定

(3) 議事

ア) 平成19年度公立大学法人島根県立大学業務実績報告について

イ) 平成19年度公立大学法人島根県立大学業務実績評価について

5. 会議の概要

(1) 委員長挨拶

本田委員長から、公立大学法人島根県立大学の業務実績報告に基づき、県立大学が統合・法人化して初めての評価を行いたいとのあいさつがあった。

(2) 会議公開・非公開の決定

事務局から、本日の会議については、会議資料として法人から提出された財務諸表があり、この財務諸表については県が承認した後に初めて公表されるべきものであること、また、法人評価に関連し、委員の率直な意見をいただく必要があることから非公開が適当との発言があった。このことについて委員に諮られたところ了承された。

(3) 平成19年度公立大学法人島根県立大学業務実績報告について

公立大学法人島根県立大学の宇野理事長及び井上副理事長から資料1に基づき、平成19年度の公立大学法人島根県立大学の業務実績について説明が行われた。また、説明の後、評価委員と宇野理事長及び井上副理事長との間で質疑応答が交わされた。

宇野理事長からは、「法人化の第1年目としては、順調な第一歩を踏み出した。」とのコメントがあった。

< 宇野理事長説明内容の概要 >

- ・ 3キャンパスの統合の象徴が各種のセンターである。アドミッションセンター、キャリアセンター、メディアセンター、FDセンター、保健管理センターは良く機能しており、統合のメリットを生み出している。地域連携推進セ

- ンターについては平成 21 年度から本格的活動を行うこととしており、現在はその準備段階である。
- ・入学者選抜については思った以上の成果が上がっている。大学院を除き、学部・学科・専攻科の全てで入学定員の 100% を達成した。特に浜田の県立大学の前期試験では全国の公立大学トップとなる 10.2 倍の志願倍率であった。
 - ・就職についても好調を続けており、ここ 2, 3 年は目標を突破している状況である。
 - ・自己財源の確保にも力を入れて取り組んでいる。特に科学研究費補助金の申請についてはほぼ全ての教員に申請するよう強く要請している。その結果、採択率も予想どおり進んでおり、補助金収入もかなり大きな額となった。
 - ・文部科学省の大学教育支援プログラムについては、毎年 1 件程度の獲得を目指していたが、5 件の採択となった。このことは、申請書の作成面における事務局職員の努力に負うところが大きい。
 - ・初等・中等教育との連携を進めるため、浜田高校に加え新たに江津高校と連携協定を締結した。また、短大部松江キャンパスにおいては、周辺地域の初等・中等教育との連携において相当実績をあげており、引き続き発展させるよう努力している。
 - ・県中山間地域研究センターと連携大学院協定を締結した。今後、センターと連携した大学院学生の教育やセンターの研究への教員の参画など、発展させていきたい。
 - ・「新たな大学構想の確立」については、これからどういう公立大学として発展をさせるかについて今後検討を進めたい。
 - ・大学院の学生確保の問題については、学部教育と大学院教育との連携をしっかりとらせることにより、大学院学生を確保していきたい。

〔宇野理事長・井上副理事長 退席〕

(4) 平成19年度公立大学法人島根県立大学業務実績評価について

事務局から、資料 2 により業務実績評価要領に基づき評点を付与する場合の考え方について説明があった。

また、資料 3 により、公立大学法人島根県立大学から提出された業務実績報告書の自己評価を検証した結果、一部の評点について変更すべき点が見られるとの説明があった。

さらに、資料 4 により、事務局から評価結果のたたき台が示された。

委員の意見を踏まえた評価結果のまとめ方については、委員長に一任された。

< 評価結果のたたき台に対する主な委員意見 >

- ・入試の倍率が高いなど、それなりの成果があがっており、県としても大学にお金を投入したことについての政策的な目標はある程度達成されていると思う。
- ・評価結果書には、是非、大学のモチベーションを高めるような、前向きで明るい表現を用いてほしい。
- ・事務局の原案どおりの評価でおおむねよい。中期目標の達成に向けて順調に進んでいると評価できる。

以上